

平成 18 年 12 月期第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 18 年 11 月 10 日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社 （コード番号:9656 福証・大証第二部）
（旧会社名 三井グリーンランド株式会社）

（URL <http://www.greenland.co.jp/>）

代表者 代表者役職・氏名 代表取締役社長 江里口 俊文

問合せ先 責任者役職・氏名 常務取締役 田畑 友三 TEL：(0968) 66-2111

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ①会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
（影響額が僅少なものについては、一部簡便的な方法によっております。）
- ②最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有
連結（新規）1 社（除外）1 社

2. 平成 18 年 12 月期第 3 四半期財務・業績の概況（平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

（1）経営成績（連結）の進捗状況 （注）百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年12月期第3四半期	6,185	(△10.8)	8	(△96.9)	△77	(-)	△43	(-)
17年12月期第3四半期	6,932	(△ 1.5)	261	(-)	160	(-)	89	(-)
(参考)17年12月期	8,914		320		190		64	

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後1株 当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
18年12月期第3四半期	△4	24	—	
17年12月期第3四半期	8	68	—	
(参考)17年12月期	6	28	—	

（注）売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期間中（7 月～9 月）につきましては、九州地区での 7 月の豪雨や 8 月の猛暑（阿蘇山では最高値を更新）、また 3 連休中日の 9 月 17 日に予定していた遊園地でのタマホーム花火大会の台風による延期など天候の不順や夏のイベントの不調が大きな要因となり低調に推移しました。特に九州の遊園地では、平成 17 年第 3 四半期間中（7 月～9 月）の売上がイベント

の好調と天候に恵まれ対前年比+17.6%と好調であったのに、当第3四半期間中には対前年比△16.2%となるなど大きく減収となりました。

当第3四半期(1月～9月)につきましては、売上高で前年同四半期と比べ遊園地事業で327百万円(前年同期比△9.2%)、ゴルフ事業で278百万円(前年同期比△23.3%)、不動産事業で114百万円(前年同期比△46.4%)、ホテル事業で13百万円(前年同期比△0.9%)の減収となりました。

事業部門別の主な減収内訳につきましては、

- ①遊園地事業の減収は、九州の遊園地△301百万円や前年6月に閉園しました「九州わんわん王国」△88百万円及び北海道の遊園地+62百万円が主な要因です。
- ②ゴルフ事業の減収は、今年3月に撤退しました東京の若洲ゴルフリンクスの受託業務△164百万円及び直営の3ゴルフ場の減収です。
- ③不動産事業の減収は、前年121百万円ありました販売用土地の売却が今期は無かった事による減収が主な要因であります、なお事業用土地に含めている土地の売却金額は当第3四半期に29百万円ありました。

営業損益では、ゴルフ場コース管理費の削減やキャデイ・カート運営の直営による効率化、役員退任慰労金制度の廃止などあらゆる経費の圧縮に努めましたが、大幅な売上の減少や重油の高騰による自家発電経費の増加などもあり、前年同四半期と比べて253百万円の減益となりました。

営業損益の対前年同期増減の内訳は、遊園地事業で△84百万円、ゴルフ事業で△69百万円、ホテル事業で+35百万円、及び利益率が大きい販売用不動産売却が無かった事による不動産事業△128百万円が主な要因です。

この結果、当第3四半期の連結売上高は6,185百万円(前年同期比10.8%減)、営業利益8百万円、経常損失77百万円、四半期純損失43百万円となりました。

10月以降の状況は、単月ですけれども10月は天候にも恵まれ、また「国立ポリショイ動物サーカス」(9月23日～11月26日)の好評と相俟って、九州の遊園地では平成12年以来7年間の最高売上となるなど復調の兆しも見えてまいりました。

また、ホテルヴェルデの11月は結婚式を含む宴会部門において平成8年以来の最高売上となる事が予約から見込まれております。

今後につきましては、九州の遊園地では、11月26日までの「国立ポリショイ動物サーカス」に加えて11月25日・26日の「ふたりはプリキュア Splash Star ショー」や12月10日の「桜塚やっくん爆笑ライブ」などいくつかの短期イベントを組み合わせ、年末の「笑う大みそか・カウントダウン2007」(長州小力率いる西口プロレス笑撃のバトルや年越し3,000発イッキ上げ花火など)に向けて万全を期して取り組みます。

ゴルフ事業では、大牟田・広川両メンバーズゴルフ場で昨年の10月から始めました既存会員権を分け与える選択制会員権制度創設により新規会員が265名(10月末現在)増加し、この1年間の預託金返還による既存会員の減少者数91名を上回りましたが、周辺ゴルフ場との競合も激しくビジター客が減少傾向にあります。

ビジター客獲得に向けて、3ゴルフ場とも改めて顧客サービスの改善点についての洗い直し

や各種オープンコンペ開催回数増について努力しているところであり、また今年5月から実施しましたキャディ・カート運営の直営化に加えてゴルフ食堂の直営化により、ゴルフ場一体となった業務の効率化と顧客サービスを図ることとしております。

また、来年に向けまして、平成19年7月から11月にかけて西日本新聞社130周年記念「未来九州子ども博」が10年前の西日本新聞社周年事業と同様に遊園地で大規模に開催されることとなり、現在西日本新聞社と共同で最終計画策定中であります。さらには来春に新規遊具として室内型ダークライトコースター設置も決定しております。

その他、中間決算短信・半期報告書の「対処すべき課題」にて記載いたしました事項の遂行に全力を挙げてまいります。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

(注) 百万円未満を切り捨てて表示しております。

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
18年12月期第3四半期	23,943	9,909	41.4	957. 81
17年12月期第3四半期	24,353	10,030	41.2	969. 78
(参考) 17年12月期	23,938	10,011	41.8	968. 29

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期における総資産は、前連結会計年度末に比べて流動資産が379百万円減少したものの固定資産が387百万円増加したことなどにより、5百万円増加の23,943百万円となりました。流動資産の減少は、たな卸資産である販売用土地を、賃貸したことにより固定資産の事業用地に振替えた額403百万円が主な要因です。また固定資産の増加は、上記の振替え編入土地403百万円、及び大牟田ゴルフ場が昭和49年創設以来賃借しておりました借地部分を買収した費用190百万円（従来の年間借地料は20百万円）及び新規購入資産から減価償却費を差し引いた額であります。

負債合計は、借入金の増加などにより106百万円増加の14,033百万円となりました。

また、純資産は利益剰余金の減少など101百万円減少の9,909百万円となりました。

3. 平成18年12月期の業績予想の修正（平成18年1月1日～平成18年12月31日）

(1) 連結業績予想（平成18年1月1日～平成18年12月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	8, 1 1 0	△ 3 5	3 0

(参考) 1株当たり予想当期純利益（通期） 2円 90銭

(2) 個別業績予想 (平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	4,910	△4	80

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 7円 73銭

[業績予想に関する定性的情報等]

当第3四半期の実績に鑑み、前回発表(平成18年7月18日)の連結業績予想及び個別業績予想を上記のとおり修正いたします。詳しい内容につきましては同日開示の「平成18年12月期業績予想の修正に関するお知らせ」に記載しておりますのでご参照ください。

なお、配当可能の利益剰余金は十分に積んでおりますものの、遊園地の大晦日カウントダウン時の天候など不確定な要素がありますので、今期の最終損益が固まるまで検討することとし、修正は見送ることといたします。

上記予想は発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、今後の様々な要因によって実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。

○ 添付資料

(要約) 四半期連結貸借対照表、(要約) 四半期連結損益計算書

(要約) 四半期連結株主資本等変動計算書、セグメント情報

以 上

[添付資料]

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成18年12月期 第3四半期末)	前年同四半期 (平成17年12月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 平成17年12月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産					
1.現金及び預金	276	388	△112		302
2.受取手形及び売掛金	237	269	△31		293
3.たな卸資産	628	1,087	△459		1,041
4.その他	226	331	△105		111
5.貸倒引当金	△10	△8	△1		△12
流動資産合計	1,357	2,067	△709	△34.3	1,737
II 固定資産					
1.有形固定資産					
(1)建物及び構築物	5,946	6,210	△264		6,134
(2)土地	14,732	14,072	659		14,134
(3)その他	675	749	△74		694
有形固定資産合計	21,353	21,033	319	1.5	20,963
2.無形固定資産					
(1)連結調整勘定	33	71	△37		57
(2)その他	242	244	△1		243
無形固定資産合計	275	315	△39	△12.7	301
3.投資その他の資産					
(1)投資有価証券	271	209	61		219
(2)その他	681	716	△35		710
(3)貸倒引当金	△1	△0	△1		△1
投資その他の資産合計	951	925	25	2.7	928
固定資産合計	22,580	22,275	305	1.4	22,193
III 繰延資産	5	10	△4	△46.3	8
資産合計	23,943	24,353	△409	△1.7	23,938

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成18年12月期 第3四半期末)	前年同四半期 (平成17年12月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 平成17年12月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(負債の部)					
I 流動負債					
1.買掛金	45	52	△6		80
2.営業未払金	182	135	47		68
3.1年以内に償還予定の社債	172	172	—		172
4.短期借入金	3,303	3,269	34		3,101
5.未払法人税等	29	82	△53		92
6.その他	449	444	4		497
流動負債合計	4,182	4,156	26	0.6	4,012
II 固定負債					
1.社債	430	602	△172		602
2.長期借入金	4,293	4,204	88		4,013
3.長期預り金	4,863	5,050	△186		4,995
4.退職給付引当金	64	53	11		51
5.役員退任慰労引当金	72	91	△19		96
6.その他	126	158	△31		155
固定負債合計	9,851	10,159	△308	△3.0	9,915
負債合計	14,033	14,316	△282	△2.0	13,927
(少数株主持分)					
少数株主持分	—	5	△5	△100.0	—
(資本の部)					
I 資本金	—	4,180	—	—	4,180
II 資本剰余金	—	4,767	—	—	4,767
III 利益剰余金	—	1,064	—	—	1,039
IV その他有価証券評価差額金	—	20	—	—	27
V 自己株式	—	△1	—	—	△3
資本合計	—	10,030	—	—	10,011
負債、少数株主持分及び資本合計	—	24,353	—	—	23,938
(純資産の部)					
I 株主資本					
1.資本金	4,180	—	—	—	—
2.資本剰余金	4,767	—	—	—	—
3.利益剰余金	943	—	—	—	—
4.自己株式	△0	—	—	—	—
株主資本合計	9,891	—	—	—	—
II 評価・換算差額等					
1.その他有価証券評価差額金	18	—	—	—	—
評価・換算差額等合計	18	—	—	—	—
純資産合計	9,909	—	—	—	—
負債、純資産合計	23,943	—	—	—	—

2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	当四半期 (平成18年12月期 第3四半期)	前年同四半期 (平成17年12月期 第3四半期)	増 減		(参考) 平成17年12月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 売上高	6,185	6,932	△747	△10.8	8,914
II 売上原価	5,627	6,116	△488	△8.0	7,851
売上総利益	557	816	△259	△31.7	1,062
III 販売費及び一般管理費	549	554	△5	△1.0	742
営業利益	8	261	△253	△96.9	320
営業損失	—	—	—	—	—
IV 営業外収益	24	17	7	42.9	26
V 営業外費用	110	118	△8	△7.2	156
経常利益	—	160	—	—	190
経常損失	77	—	—	—	—
VI 特別利益	21	371	△349	△94.2	371
VII 特別損失	15	346	△331	△95.7	382
税金等調整前四半期 (当期)純利益	—	185	—	—	179
税金等調整前四半期 純損失	71	—	—	—	—
法人税等	△27	96	△123	—	115
少数株主損失	—	0	△0	△100.0	0
四半期(当期)純利益	—	89	—	—	64
四半期純損失	43	—	—	—	—

3. (要約) 四半期連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		純資産 合 計
	資本金	資本剰 余金	利益剰 余金	自己株 式	株主資 本合計	その他有 価証券評 価差額金	評価・換 算 差 額 等合計	
平成17年12月31 日残高	4,180	4,767	1,039	△3	9,983	27	27	10,011
当四半期中の 変動額								
剰余金の配当			△51		△51			△51
四半期純損失			△43		△43			△43
自己株式の処分				3	3			3
株主資本以外の項 目の当四半期中の 変動額(純額)						△9	△9	△9
当四半期中の変 動額合計	—	—	△95	3	△92	△9	△9	△101
平成18年9月30 日残高	4,180	4,767	943	△0	9,891	18	18	9,909

4. セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当四半期（自 平成 18 年 1 月 1 日 至 平成 18 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	遊園地 事業	ゴルフ 事業	ホテル 事業	不動産 事業	その他 の事業	計	消去又 は全社	連結
売上高	3,243	930	1,688	132	444	6,439	(254)	6,185
営業費用	3,037	990	1,676	54	441	6,200	(22)	6,177
営業利益(△損失)	206	△60	12	78	2	239	(231)	8

前年同四半期（自 平成 17 年 1 月 1 日 至 平成 17 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	遊園地 事業	ゴルフ 事業	ホテル 事業	不動産 事業	その他 の事業	計	消去又 は全社	連結
売上高	3,566	1,198	1,510	247	410	6,932	—	6,932
営業費用	—	—	—	—	—	—	—	—
営業利益	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 当四半期より事業の種類別セグメント情報の開示を行っており、前年同四半期(平成 17 年 12 月期第 3 四半期)は売上高のみ開示しておりますので上記の金額は消去後の金額で記載しております。

(参考)

前期（自 平成 17 年 1 月 1 日 至 平成 17 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	遊園地 事業	ゴルフ 事業	ホテル 事業	不動産 事業	その他 の事業	計	消去又 は全社	連結
売上高	4,269	1,663	2,080	313	663	8,990	(75)	8,914
営業費用	3,977	1,608	2,092	79	596	8,353	240	8,594
営業利益(△損失)	291	55	△11	233	67	636	(315)	320

[所在地別セグメント情報]

当四半期において本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため該当事項はありません。

[海外売上高]

当四半期において海外売上高が連結売上高の 10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。